

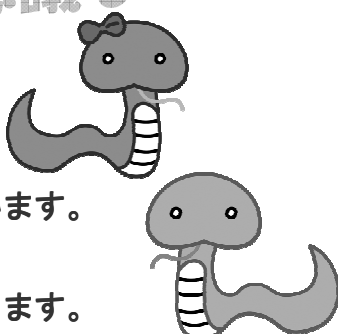
森のお便り 1月号 2013年

発行・編集 「到津の森公園」「森の仲間たち」13年1月1日発行 通巻119号

あけましておめでとう 干支展

もっと知りたい不思議なへびたち

2013年はへび年！
気持ち悪いと嫌う人もいれば、
一方で根強い人気のあるへび。
その生態は、不思議に満ちています。
今回は「干支展」として、
さまざまなへびを集めご紹介します。



- 開催期間： 2月24日(日) まで開催中 9:00～17:00
※1/2・3は10:00～17:00
※12/30～1/1、毎週火曜日は休園
- 場 所： 園内「里のいきもの館」
- 観 覧 料： 無 料(入園料は必要)
- 内 容： 市内に生息するへび(ニホンマムシ、ヤマカガシなど)や、外国産のへび(テングへび、クロスサンカクへびなど)の合計約20種20点を展示。「生息環境」や「進化」、「人とのかかわり」などのテーマ別に生体や解説パネルを展示するほか、脱皮殻などにさわれる体験コーナーや、顔出しパネルも設置しています。
※展示種類は、場合により入れ替わることがあります。

★森のおはなし探検隊★

1月のテーマは『木の実で鬼の面づくり』

子どもから大人まで楽しめるプログラムを月替わりで用意しています。

多くの方のご参加をお待ちしています。

開催日時： 1月20日(日) 13:00～14:00

開催場所： 子どもホール2階 集合

参加費： 無料(別途要入園料)・事前申込不要



市民ボランティア「森の仲間たち」

イベント情報！

☆わくわく体験教室☆

～かんたんアニマルおもちゃを作ろう！～

親子で楽しめる「わくわく体験教室」

今月は、たこ糸や厚紙を使って、スルスルとよじ登る動物のおもちゃを作ります。

開催日時： 1月27日(日) 13:00～15:00 《受付13:45まで》

※材料がなくなり次第終了

開催場所： 里のいきもの館レクチャールーム

参加費： 100円(別途要入園料)・事前申込不要

天候などの都合により変更・中止することがあります。どうぞご了承下さい。
詳しくは、HP もしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問合わせ下さい。

森の仲間たち



「到津の森公園」公園事務所
北九州市小倉北区上到津 4-1-8
Tel 093-651-1895 〒803-0845
<http://www.itozu-zoo.jp/>

これまでも園内でゴンズイ(ミツバウツギ科)の姿が見られないのは不思議とお話した事があります。隣接する県立公園などをはじめ市街地にも大木が残っており、冬まで赤い実をたくさん下げて私達の目を楽しませてくれます。

いまひとつ秋から冬にかけて、園内にいてくれたらと思うのがウバメガシ(ブナ科)です。そう、あの高級炭、備長炭の原料として有名ですね。50年近く前岡山路を歩いた時海岸近くに中高木の常緑樹の森が続いていて、一種類の木だけがびっしり生えている様子は、子供心に印象的で今でも忘れられない情景。これが私のウバメガシを認識した最初でした。その後、紀伊半島から岡山方面にかけてかなりありふれた樹種であるらしく、たびたび出会う事になります。四国や九州では宮崎でもウバメガシで炭を焼く話を聞きました。話はそれますが、昔は海上交通が主であった為か、近畿・中国地方から四国、そして九州は大分・宮崎方面との交流を強く感じる事があり、北九州育ちの私は少し淋しい思いで、植物の交流でも「おい、仲間はずれかい？」とひがみたくります。

それはさておきウバメガシの小さな葉は厚くつやつやとしてよく茂り、根元からたくさん枝分れするので、大木でも圧迫感はなく暖かく可愛らしいイメージもあります。ウバメは「姥芽」、若葉はお歯黒にも使われたとの事。

二年かけて成熟するドングリも食用になるなかなか‘いい奴’です。市内でも公園や庭木として植えられ、きれいに刈り込まれたお屋敷の生け垣は格調高く本当に素敵ですが、野生と思われるウバメガシにはまだ出会わずにいます。残念ながらウバメガシのいない到津の森公園ですが、今は鳥を楽しむ最高のシーズンです。

ヒヨドリ・ジョウビタキ・シジュウカラ・シロハラ・アトリ・コゲラ・ハクセキレイ・コガモ・カルガモ・メジロ・アオサギ・コサギ・ダイサギなど。あのカワセミもやって来ますよ。まだまだ色々な種類の鳥たちに会いに皆さん到津の森へいらして下さい。

ビオトープ前のアラカシの垣根の中に一本ウバメガシがありました。

文：花咲くおばさん

花暦 睦月

森の仲間たち・ヘビ

2013年の干支はヘビ。そう、巳年ですね。みなさんはヘビについて、どんなイメージを持っていますか？かっこいい・かわいいという声から、怖い・気持ち悪いという声まで様々……。いろいろな動物の中でも、ヘビほど好き嫌いが分かれる動物は珍しいかもしれませんね。

干支の動物にはそれぞれ特徴があり、今年の干支であるヘビは、そのしぶとさや執念深さから『探究心と情熱の象徴』とされているそうです。また、生命力が強いことや何度も脱皮を繰り返すことから、死と再生のシンボルとしても位置づけられていて、ギリシャ神話に登場する医学の神様は、ヘビが巻き付いた杖を持った姿で描かれるそうです。

そんなヘビは日本でも古くから信仰の対象であり、豊かな実りをもたらす豊穰神や、雨や雷を呼ぶ天候神として、各地で崇められていたようです。

こんなことを思いながらヘビたちを見てみると、また少し違って見えるかもしれませんね。今年はそんなヘビに習って、ひとつの物事に情熱をもって執念深く取り組んでみてはいかがでしょうか？



飼育展示係 福井 智太